

教科	科目	単位数	種別	年次	
公民	公共	2	必修科目	1年	
使用教科書	公共(東京書籍)			担当者	

学習目標  
社会的な見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。

学習方法  
学習を通じて現代社会の諸課題についての基本的な知識を身につけるとともに、課題解決のために主体的に考え判断する能力を身につけることを目指す。社会課題に対するみかた、考え方はさまざまあり多面的であることを重視しその複数性の中で生徒が自分で考え対話を通じて、合意形成を目指す、公共的存在として能力を養うこととくに重点を置く。

育成を目指す資質・能力	育成を目指す資質・能力の評価内容
1 基礎的・基本的学力	基礎的・基本的学力を身につけ、その知識・技能を他の学習や生活の場面でも活用することができる。
2 課題解決能力	社会的諸事象を多面的・多角的に考察して、具体的な課題を設定し、解決に向かうことができる。
3 情報活用能力	多様な着眼点から、適切に情報を収集し、課題解決法や自分の考えの形成に役立てることができる。
4 自己表現力	目的や意図に応じて、自分の考えを分かりやすくまとめ、表現することができる。
5 主体性	課題解決に向け、主体的に追究することができる。
6 協働性	課題に対して、他者と連携し、力を合わせて解決を図ることができる。
7 自己理解	諸活動を通じて自己の在り方生き方を考えることができる。
8 社会貢献(社会参画)	地域社会とのつながりについて理解し、持続可能な社会について考察することができる。

以上の観点をふまえ、授業の取り組みや単元テスト、小テスト、レポート、授業プリントへの取り組みなどを総合的に評価する。

担当者から  
時数の兼ね合いから題材を選択して進みプリントを中心に授業をおこなう。授業時間を大切に自宅でも復習に励むことを望む。また、公共では身近で起こるさまざまな社会問題や話題を引き付けて考えるテーマ学習が設定している。主体的、対話的な授業を通して自ら思い考え深めることを目標とする。

月	大単元	単元(題材)	学習内容	重点評価事項(資質・能力)								単元(題材)の評価規準			評価方法		
				1	2	3	4	5	6	7	8	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度			
4	公共の扉(公共と人)	※ オリエンテーション 1 人は一人では生きられない 2 人はどのようにつながるのか 3 自由と正義の実現を目指す 4 対話から生まれる公共 5 日本の公共思想 ※各テーマ学習	人と人とのつながりの中で自由に生きられる公共空間の重要性を学び、それを形成するうえで重要な知識を習得させる。											人が人生において持つ意味を理解している。人と人とのつながり、人間の本性や日本における公共の発展について理解している。	公共空間とはどのような空間か自分の体験や具体的事例に基づいて思考している。相手の意見を受けて自分の考え述べることができる。	多様な人間と共働する公共空間の担い手としての自覚を深める。自由で公正な社会の実現に向けて主体的に思考している。	単元テスト 小テスト レポート 授業プリントへの取り組みなどで評価する。
5	公共の扉(公共と倫理)	1 功利主義と義務論 2 水俣病を考える 3 地球温暖化問題 4 誰が医療を支えるのか ※各テーマ学習	戦後の公害問題や地球環境問題を考え、これを将来どのように解決するかが重大な課題であることを注目させる。											感性と理性の相違について理解している。経済と環境との関係を理解している。	社会現象や政策判断を功利主義、義務論の考えに基づき表現している。	学習した内容を自らの倫理観、過去の行為に照らし合わせて思考している。	
6	公共の扉(公共の基本原則)	1 生徒会予算をどう分配するのか 2 意見が分かれたときにどう決めるか 3 民主政治の歴史 4 日本国憲法の三つの原理 5 基本的人権の尊重 6 大学入試と男女差別 7 男女女性医師が日本は少ないのか	民主主義の基本的な仕組みを理解させ、国民主権、基本的人権の尊重、平和主義の憲法の原理についての知識を習得している。 法の下での平等、自由権、社会権などの基本的人権はすべての人間が持っており、憲法がそれぞれを保障していることを学ぶ。											異なる意見を持つ他者の考え方を理解しようとしている。憲法での国民の権利と義務について理解している。日本社会の現状について理解している。	民主主義のさまざまな制度がなぜ必要なのか表現できている。立憲主義の意義について適切に表現できる。「公共の福祉」の概念が、どのような役割を果たすのか思考する。	自らが持っている人権(自然権)について自覚を深めている。日本国憲法の条文を読み、理解を深めようとしている。様々な基本的人権について、権利主体として自覚しつつある。	
7	現代社会の諸課題(法)	1 法と社会 2 多様な契約と消費者の権利と責任 3 日本の司法制度 ※各テーマ学習	社会が法やマナー、道徳などのルールにより維持されていることを学ぶ。社会生活を営む上で、私たちは様々な契約を結んでいることを理解させる。											法と道徳との相違点を理解している。契約が当事者の同意により、成立することを理解している。	法の限界を理解し、法の実効性を高めるための手段について思考している。よい社会の実現のための法がどのように機能しているか表現している。	法について関心を持ち、自らが持つ権利と、責任について自覚を深めている。	
9	現代社会の諸課題(政治)	1 選挙と政治参加 2 公正な世論の形成 3 国会と内閣 4 地方自治 ※各テーマ学習	民主主義を維持していくために私たちの主権者としての自覚が重要である点を強調し、国民の意思決定は民主主義の本旨であることを理解させ、そこで展開される政治についての仕組みについて理解を深める。											民主主義とは国民に主権があるという基本的な考えに基づき、これを実現するためにさまざまな制度や法律があることを理解している。	現在の日本の政治制度について具体的に説明できる。主権者としてどのような意識が重要か思考している。	政治に関心を持ち、私たちの民意を実現するために、よりよい政治の仕組みを考察しようとしている。	
10	現代社会の諸課題(国際社会と日本)	1 国家主権と領土 2 安全保障と防衛 3 21世紀の世界情勢 4 国際社会と日本 ※各テーマ学習	戦後、日本が国際社会において果たしてきた役割を学び、今後日本が国際社会で果たすべき責任について学習する。											戦後の日本がたどってきた歴史と、国際貢献の内容を理解している。日本が国際社会で果たすべき責任について思考している。	平和主義という憲法の理念の下、過去の戦争責任を果たしつつ、同時に未来の平和責任を果たし日本の役割について思考している。	先進国である日本が国際社会で果たすべき役割について、自覚を具体的に考察する意欲がある。	
11	現代社会の諸課題(経済)	1 職業選択 2 雇用と労働 3 労働者の権利 4 財政の役割 5 租税の仕組みと国債 6 少子化と社会保障 7 市場経済の役割と限界 ※各テーマ学習	日本経済がたどってきた産業構造の変化と、今後の働き方の可能性について学び、自らが働くことの意味や、生活とのバランスについて自覚を持たせる。 日本の財政についてのしくみについて知識を習得しているとともに、日本の財政問題についてその現状と課題について考えていく。											財政の三つの役割について知識を習得している。景気を安定させるための財政政策の仕組みを理解している。	財政が市場経済で発生する諸問題に対処するため政府が行う経済活動を思考している。	将来どのような働き方を望むか、日本経済環境の変化を主体的に受け止めて思考している。	
1	現代社会の諸課題(金融)	1 金融のはたらき 2 日本銀行と金融経済 3 グローバル化と経済統合 4 格差是正と多文化主義 ※各テーマ学習	金融が家計、企業、政府の間で幅広く行われ、経済活動を支える重要な役割を果たしていることを学習する。 金融市場の仕組みと、企業の会計情報などの知識を習得するとともに、金融の自由化、国際化について学ぶ。											直接・間接禁輸の違い、銀行や証券会社など金融機関の役割を理解している。	金融の仕組みを通してお金が流れ、経済主体の間を循環していることを表現している。	預金や株式などに関心を持ち、経済主体としての自覚を深めている。日本の金融の流れについて自ら調べようとしている。	

3	現代社会の諸課題 (情報)	1つながりばなしの私 2インターネットは公共圏か？ 3持続可能な社会へ ○まとめ	現代社会が膨大なメディアを介して人と人が繋がっていることを理解し、自らとメディアとの関わり方について考える。 これからの持続可能な社会にどんな課題があるのかを考察し、これまで学習してきた公共的な見方・考え方をはたらかせて課題解決に向けて学習する。				メディアとはテレビや携帯などの単なる機器ではなく、情報環境そのものであることを理解している。社会課題の調査、表現方法、課題解決に向けた協議方法について学習している。	人は通信機器を通じて何をしようとしているのか、自らとメディアの関係について考えている。公共で学習した内容や課題をもとに見方・考え方を働かせ、具体的な社会課題を見出し、これを適切に表現している。	メディアについてより深く学ぼうとしている意欲が見られる。ここで学んだことをもとに、社会参画への意欲を持ち始めている。
---	------------------	---	--	--	--	--	--	--	--

教科	科目	単位数	種別	年次
公民	倫理	2	選択科目	異年次合同
使用教科書	高等学校 新倫理(清水書院)			担当者

学習目標  
社会的な見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。

学習方法  
教科書をもとに先哲の思想に触れ、「より良く生きる」ということについて考える。

育成を目指す資質・能力	育成を目指す資質・能力の評価内容
1 基礎的・基本的学力	基礎的・基本的学力を身につけ、その知識・技能を他の学習や生活の場面でも活用することができる。
2 課題解決能力	社会的諸事象を多面的・多角的に考察して、具体的な課題を設定し、解決に向かうことができる。
3 情報活用能力	多様な着眼点から、適切に情報を収集し、課題解決法や自分の考えの形成に役立てることができる。
4 自己表現力	目的や意図に応じて、自分の考えを分かりやすくまとめ、表現することができる。
5 主体性	課題解決に向け、主体的に追究することができる。
6 協働性	課題に対して、他者と連携し、力を合わせて解決を図ることができる。
7 自己理解	諸活動を通じて自己の在り方生き方を考えることができる。
8 社会貢献(社会参画)	地域社会とのつながりについて理解し、持続可能な社会について考察することができる。

以上の観点をふまえ、先哲の言葉や考え方を学び、そこから自らの生き方や社会のあり方について考えるようになったかを、単元テストや作文、グループ学習での取り組みによって総合的に評価します。

担当者から  
「考えること」「考えを深めること」の大切さと、そのためには先哲の思想を学ぶことに意義があることに気づいてもらえることが、学習の目的です。

月	大単元	単元(題材)	学習内容	重点評価事項(資質・能力)								単元(題材)の評価規準			評価方法	
				1	2	3	4	5	6	7	8	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
4	現代に生きる自己の課題と人間としての在り方生き方	人間としての在り方生き方の自覚	個性、感情、認知、発達などに着目して、様々な人間の心の在り方について理解する。										個性、感情、認知、発達などに着目して、他者と共によりよく生きることについて思索する手掛かりとなる様々な人間の心の在り方について理解する。	・自己の生き方を見つめ直し、自らの大きな悩みを振り返り、他者、集団や社会、生命や自然などとの関わりにも着目して自己の課題を捉え、その課題を現代的課題と結びつけて多面的・多角的に考察し、表現している。	現代に生きる自己の課題と人間としての在り方生き方に関わる事象や課題について主体的に追求したり、他者と共によりよく生きる自己を形成しようとしていたりしている。	単元テスト グループワーク レポート 小論文 などをもとに評価する。
			幸福、愛、徳などに着目して、様々な人生観について理解する。									幸福、愛、徳などに着目して、人間としての在り方生き方について思索する手掛かりとなる様々な人生観、宗教や芸術の意義について理解する。	・古今東西の先哲の考え方を手掛かりとして、より広い視野から人間としての在り方生き方について多面的・多角的に考察し、表現している。			
			善、正義、義務などに着目して、様々な倫理観について理解する。									善、正義、義務などに着目して、社会の在り方と人間としての在り方生き方について思索する手掛かりとなる様々な倫理観について理解する。				
			真理、存在などに着目して、様々な世界観について理解する。									真理、存在などに着目して、世界と人間の在り方について思索する手掛かりとなる様々な世界観について理解する。				
			古今東西の先哲の考え方を手掛かりとして、より広い視野から人間としての在り方生き方について多面的・多角的に考察し、表現すること。									先哲の思想から考え方を理解し、自分の生き方に結ぶ。	古今東西の先哲の考え方を手掛かりとして、より広い視野から人間としての在り方生き方について多面的・多角的に考察し、表現すること。			
12			古来の日本人の考え方や日本の先哲の考え方を手掛かりとして、国際社会に主体的に生きる日本人としての在り方生き方について多面的・多角的に考察し、表現する。									古来の日本人の考え方や日本の先哲の考え方を手掛かりとして、国際社会に主体的に生きる生き方について多面的・多角的に考察し、表現する。				





3	グローバル化する国際社会の諸課題の探求	グローバル化に伴う資源・エネルギー問題、人種・民族問題や地域紛争の解決に向けた国際社会の取り組み、持続可能な国際社会づくりなどについて、取り上げた課題の解決に向けて多面的・多角的に考察し、自分の考えを説明、論述する。	○	○	○				国際社会の諸課題について、その解決に向けて、これまで学んだ知識を活用する。	資源・エネルギー問題、地域紛争の解決に向けた国際社会の取り組み、持続可能な国際社会づくりなどの課題の解決に向けて多面的・多角的に考察し、自分の考えを説明、論述する。	グローバル化する国際社会の諸課題について、よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。
---	---------------------	--	---	---	---	--	--	--	---------------------------------------	--	--



12 1	グローバル化する国際社会の諸課題の探求	グローバル化に伴う資源・エネルギー問題、人種・民族問題や地域紛争の解決に向けた国際社会の取り組み、持続可能な国際社会づくりなどについて、取り上げた課題の解決に向けて多面的・多角的に考察し、自分の考えを説明、論述する。	○	○	○		国際社会の諸課題について、その解決に向けて、これまで学んだ知識を活用する。	資源・エネルギー問題、地域紛争の解決に向けた国際社会の取り組み、持続可能な国際社会づくりなどの課題の解決に向けて多面的・多角的に考察し、自分の考えを説明、論述する。	グローバル化する国際社会の諸課題について、よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。
---------	---------------------	--	---	---	---	--	---------------------------------------	--	--

